

鳥大附小の魅力紹介

2022 vol. 1

本年度の学校生活と行事

Part. 1

2022年度も早や3か月が経過しました。コロナ禍も3年目を迎え、ワクチン接種もある程度行き渡ったところで次のステージに入った感があります。

本校の学校生活も、ここまでのところ順調に進んでいます。今回は、今春以後の学校生活の様子と行事についてご紹介しましょう。

1. 「時は金なり」の生活

これまで本校では、教室に時計はあるものの、チャイムは鳴らしていませんでした。時間の管理は各教員と休み時間に流れる放送委員会の児童による合図のみでした。授業の始まりや終わりなど、融通がつけやすくこれはこれでメリットもありました。他方で、場所によっては子供たちが時間を知る術がないため、事前の準備もしにくく、何かと動きが遅れがちでもありました。そこで、4月からはチャイムを鳴らすようにしたところ、チャイムを合図に子供たちのキビキビした動きが見られるようになりました。これを機会に、時間を大切に意識する習慣が身についてくれることを期待しています。

2. さまざまな行事の実施・復活

県内の新型コロナ感染者数が安定していることもあり、最大限の感染予防に取り組みながらさまざまな行事を再スタートさせています。

5月2日 学年別遠足：これまでは全校児童が鳥取砂丘に出掛け、6学年でレクリエーションを楽しむ「砂の学校」を実施してきましたが、今年度は学校からの徒歩圏内に学年ごとに出掛ける遠足を実施し、新しいクラスの結束を強めました。



5月13日 小中合同引き渡し訓練：災害等の非常時に備えて、小学校・中学校合同での児童・生徒の引き渡し訓練を実施しました。合計700名を超える子供たちを迎えに、保護者の方にお越しいただきました。想定通りにはいかない点もあったようですが、非常時への備えと心の準備は常に心がけておきたいものです。こうした訓練が、訓練ではない実施にならないことを祈るばかりです。

5月16日～27日 教育実習：鳥取大学4年生20名の学生が、2週間の教育実習にやって来ました。日頃とは異なり、休憩時間に実習生と楽しく過ごす児童の姿が印象的で、アツという間の2週間でした。

5月31日・6月2日 附属幼稚園児との交流：これまでも毎年実施してきた附属幼稚園年長園児と1年生の交流で、1年生は校内では最年少ながらも対園児ではお兄さん、お姉さん振りを発揮しました。本校と附属幼稚園は昨年度より鳥取県の幼小連携事業に取り組んでおり、これまでの実績ある取組成果の還元が期待されています。

6月8日～10日 6年生旅の学校：本校の修学旅行に代わる6年生の宿泊行事として、歴史学習を主目的に鳥根県の世界遺産・石見銀山、出雲大社、国宝松江城などを訪問し、教科書だけではない生の歴史を目の当たりにしました。この間は予定通りに実施ができず、延期を余儀なくされましたが、今年度は予定通り無事に実施でき、関係者みんなが安堵しました。



6月7日・14日 4年生の国際交流活動：コロナ禍のため鳥取大学に留学生の姿がほとんど見られない時間が長く続きましたが、昨年度秋より徐々に留学生が鳥取に戻ってきました。そこで、コロナ禍以前に実施していた4年生と留学生との交流活動を再開し、久しぶりに留学生との楽しい時間を共有しました。

